

井丸昌紀ミニ句集

〇〇〇〇酒と私と川柳と



## 井丸昌紀 略歴

1997年10月4日

自分の句が初めて活字になる。

楽々とやりこなしてる振りをする（朝日なにわ柳壇 課題「楽」橘高薫風選

2002年10月5日

大阪産経学園から川柳入門講座（講師・橘高薫風）の案内が届き、私は勝手に勘違いして入門。二年足らずで薫風師は体調を崩され、奥田みつ子先生にバトンタッチされた。

2003年7月7日

大胆にも、「川柳塔本社句会」初出席。ビギナーズブックで一句抜ける。

いよいよとなれば来いよと言ったはず。課題「いよいよ」板尾岳人選

2004年8月11日

産経学園の講座の学級委員長的存在であった故西内朋月さんに、「みつ子先生が選をするから行かなあかん」と無理やり「川柳文学コロキユウム」句会に連れて行かれる。ここでもビギナーズブックで四句抜ける。

裏表ないけど横は怖い人。課題「横」奥田みつ子選 他

句会後の懇親会。酔っ払い、無理やり会費を払い会員になってしまったらしい。

2004年9月22日

奥田みつ子先生から「川柳塔まつりで表彰された時なんかは花束を贈ってくれよ  
うな、ベースとなる句会を持たないと駄目です。『南大阪川柳会』が一番近いので、会  
長の前たもつさんに言うっておくから行きなさい」と言われ、地図を頼りに初参加。南  
大阪川柳会はずっと出席しているが、川柳塔まつりでの表彰はまだない。

2004年9月27日

「川柳文学コロキウム」の懇親会で、故久保田元紀さんに「来月から天守閣に来  
なさい」と勧誘というより命令され、立て続けに「天守閣」にも初出席。現在は昼間  
の句会となってしまっているため、川柳塔本社句会と同様ご無沙汰している。

2004年12月5日

「天守閣」の懇親会で、立蔵信子さんから「瓦版にも来てください」と翌々日ぐらゐに句報が送られてきて、「瓦版」初出席。当時の会長は故柏原幻四郎さんであった。どうも、懇親会に出席する度に参加する句会が増えていくようである。

2005年6月18日

奥田みつ子先生に勧められて「サークル檸檬」初出席。当時、川柳塔の奥の院のよくな雰囲気がしていたように思う。

2007年6月30日

産経学園の講座が一週間ずれて「川柳塔すみよし（当時はすみよし川柳会）」と同じ日となり、講座のお姉さんたちに「（鶴田）遠野さんが句会を立ち上げはったんで

応援に行きましよ」と言われて住吉まで行くことになった。どう考えても受動的な句会参加ばかりで、能動的な参加はない。困ったものだ。

この句会は土曜日開催の上、帰途はなんば駅で乗り換える必要があり、勢い懇親会の後歌舞伎座裏などで脱線、沈没してしまうことが多々あり。これも困ったものだ。

2013年7月13日

ある日、ぼんやりと同窓会会報を眺めていると「田中新一氏 句集『生きる』発刊」とあった。えーっ。先輩やったんや。その年の「川柳塔まつり」の懇親会で「私、十年後輩でした」と告げると体育会系的乗りで『(番傘)わかくさ』に來なさい」と・・・しばらくどうしようかと迷って行かないまま、何かの折、西出楓楽さんにこの話をすると「そら、あんた行かんとあかんわ」と言われ、これも受動的に行き始めた。

2016年4月17日

初句集。「ネオンきらきら」新葉館eブックス 新葉館出版

2017年5月24日

どうも僕の川柳人生は、酒とは切り離せないようにで・・・

川柳の節目節目に酒がおり

○○○○酒と私と川柳と

(ほぼ発表日順)

飲みなはれあんたの金で好きなだけ

にこにここと肴にされる人格者

乾杯のちよつと一言泡も消え

取りあえずビール酒ではないらしい

夕されば水も我慢し待つビール

縄のれんおいでおいでと揺れている

缶ビールコップに注がぬのが作法

乗り換える駅に馴染みの店がある

酔う程に人の心の裏も見え

飲む話決まりゆるめておくべルト

今日もまた騙されに行くネオン街

下戸知らず酔いざめに飲む水の味

居酒屋に行ったところまで覚えてる

飲む理由見つけて今日も酔っている

生ビール一杯ほどのわだかまり

酒好きの医者に命を預けてる

口説くつもりなかったけれど酔うまでは

もう一杯飲めばハイドになる私

仲直りしたきっかけも酒だった

ノーベル賞酒がきらいになる薬

縄のれんついふらふらと召し捕られ

反省会まず乾杯で始まった

ゆらりゆらり飲むのはこれでやめとこう

飲み過ぎてネオンの波に溺れそう

見慣れない店がごろごろ法善寺

深い訳ないけど今日も飲んでいる

左遷地は地酒うまいと言っておく

荒れた心酒で癒してさらに荒れ

酔いさめた途端閃き消えていた

悩み事消した酒から出た悩み

酒飲んで暴れたことは忘れてる

椅子置いてから閑古鳥鳴く立呑み屋

ややこしい話はおいて酒や酒

飲み会をさぼった訳は秘密です

罨一杯潜んでました只の酒

ごろごろとしていた今日の不味い酒

酔い醒めていよいよ深くなる悩み

内臓が酒飲みたいと駄々をこね

赤ちようちんで飲み直してた名幹事

朝も酒昼も酒ああお正月

誘われていやいや飲んでいるのです

いつもの酒半分にする休肝日

あと一合飲んだら羽根が生えてくる

建前はじんわり酒に溶かされて

酒でもつれた話は酒で解きほぐす

酒足していよいよ枯れてゆく句想

酔うほどに余計もやもや立ち込める

初デート酒は嫌いと言っておく

誘われた酒は付き合う義理がある

ネオンきらきらちよつと漂うことにする

井丸昌紀ミニ句集

〇〇〇〇〇酒と私と川柳と

発行人 井丸昌紀

編集所 川柳塔社 WEB サイト

<http://senryutou.net>